

平成27年度学校評価実施報告書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><教育課程> (1)幅広い興味・関心に対応できる教育課程の編成と個に応じたきめ細かい学習支援の体制づくりを進める。 (2)放課後を使った日常的な学習指導や長期休業中の補習・講習の体制を整備する。</p>	<p>(1)学校及び各教科で定めた「育てたい生徒像」を反映した教育課程に基づいた学習指導を充実に行う。 (2)放課後・長期休業中などを利用して、講習・補習の充実を図り、学力のより確実な定着を図る。</p>	<p>(1)「育てたい生徒像」に生徒が近づき、また生徒のニーズに応えた学習指導ができたか。(担当教員による評価) (2) ・進路希望に沿った学習支援が成されたか。(生徒・保護者アンケート) ・講習・補習の講座数や参加生徒数が増えたか。 (講座数・参加人数)</p>	<p>(1)「思考力を持った生徒」を「育てたい生徒像」として指導してきたが、「学習成果発表会」などにおいて、授業で育んだ思考力を、効果的に発表することができ、思考力伸長に重点を置いた学習指導が効果を上げ始めている。 (2)ほぼ進路実現に沿った教育課程編成になっており、選択科目の設定も適切であった。 講習、補習については講座数は例年通りの開講数であったが、参加生徒数は微減している。</p>	<p>(1)教科ごとに定めた「育てたい生徒像」が抽象的で、その浸透もまだ十分とは言えないので、教科、科目ごとに「生徒に身に付けさせたい力」の具体的な設定が求められる。 (2)基礎学力の達成度が不十分の生徒も一部に見られ、自由選択科目の設置幅や科目が適切かどうかの検討が必要である。また、選択科目の決定時期の見直しも併せて検討したい。講習、補習についてはさらに効果的な周知方法を検討していく。</p>	<p>(保護者) ・進路希望を具体的に決められない時期に、選択科目を決めなければならないのは、早すぎるという感もあるが、それによって進路意識が高まるとも思われる。 ・夏期講習の設定は非常にありがたいので、継続を望む。(学校評議員) ・夏期講習の参加人数が伸びていないのが気になる。周知方法をもっと工夫すべきだ。</p>	<p>(学校評価) 「思考力を育てる授業」づくりをある程度構築でき、生徒も順調に伸びているとは思われるが、学校全体でそのような授業が実現されているとは言えない。また、夏期講習の講座数が増えたにもかかわらず、参加人数の増加が見られないということは、教員の指導体制づくりが進んではいないものの、生徒の学習意欲を喚起している工夫がそれに追いついていないと言える。選択科目の決定時期は確かに早いと言えなくはないが、夏期休業期間中に面談を行って、十分に検討する時間を取っている。 (改善方策等) 研究授業を授業担当者だけの研究にせず、学校全体で共有、そして実践できる計画を立てる。教育課程については、本校の生徒の実態及び学校の新しい中期目標に即した方向性で検討していく。 夏期講習については、講座内容案をより具体的に、参加意欲が高まる周知方法をとる。</p>
<p><生徒指導・支援> (1)様々な場面で地域社会の一員としての規範意識を育む。 (2)校内の教育相談体制を充実させるとともに、外協機関との連携を図り個に応じた支援体制を整備する。 2</p>	<p>(1)①「挨拶」「アイコンタクト」「リスペクト」を推進する。 ②服装・頭髪・遅刻・授業規律について、年間を通して段階的な指導を行う。 ③日常的に駐輪指導、校内巡回指導を行う。 ④定期的に自転車点検、自転車乗車マナー指導、登下校指導を行う。 (2)①養護教諭とスクールカウンセラーを中心とした教育相談体制を整備する。 ②教育相談コーディネーターと連携し、ケース会議を効果的に運用できる校内体制を整備する。</p>	<p>(1)①～④の取組みにより、地域社会の一員としての規範意識を育むことができたか(指導件数、近隣住民からの苦情件数、担当教員による評価)。 (2)①～②の取組みにより、校内教育相談体制の整備が進んだか(担当教員による評価)。</p>	<p>(1)昨年度多かった授業中の携帯使用による特別指導は0件。対教師暴言による指導件数が増えたが、各学年の組織的な指導が徹底された結果だと思われる。自転車乗車マナー等に関する苦情は、上半期多かったが下半期には減少した。服装・頭髪については、二月以降再登校指導を導入した効果が確実に表れている。 (2)スクールカウンセラーを中心とする相談体制は十分に機能し、多くの生徒が活用した。</p>	<p>(1)服装・頭髪指導については、今年度導入した新たな指導体制が形だけのものにならないよう、全学年での統一した指導と、情報の共有を図る必要がある。また、通学時に登下校指導を行うとともに、自転車乗車マナーや交通安全についての意識を更に高める工夫が必要である。 (2)生徒情報を共有し、ケース会議が必要な生徒を確実に把握して速やかに対応できる体制作りが必要である。</p>	<p>(保護者) ・服装、頭髪、遅刻指導に学校が積極的に取り組むようになったことは評価できる。 ・自転車乗車マナーについて、いっそうの指導を期待したい。 (学校評議員) ・生徒指導の基本は教員と生徒との員来関係づくりであって、本校はその点ができていいる事が評価できる。</p>	<p>(学校評価) 服装・頭髪指導は、順調に開始できたと思われる。ただし、全学年での統一した指導と、情報の共有を図る必要がある。また、通学時の危険箇所において重点的に登下校指導を行うとともに、自転車乗車マナーや交通安全についての意識を更に高める工夫が必要である。教育相談体制はできてきたものの、ケース会議の体制作りがまだ十分とは言えない。 (改善方策等) 生活支援グループと、各学年会との連絡を密にして、常に共同歩調を取れるようにする。自転車乗車マナーの向上については、講義的で一方的な指導ではなく、生徒側からの発信も工夫したい。 学年会から積極的にケース会議の開催を申し出てもらおう啓発活動を行う。</p>
<p><学習指導・授業改善> (1)授業マナーの指導を通して生徒の学習意欲の向上・学習態度の改善を図るとともに、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力をはぐくむ取組みを充実させる。 (2)校外機関や中学校との協力を得て、生徒・教員双方が発信型の授業実践研究を行う。</p>	<p>(1)①基礎的な知識技能を身に付けさせることをねらいとした授業においても、実習や体験学習的な授業スタイルを取り入れる。 ②各教科で「思考力を伸ばすための授業実践集」に基づいた授業づくりを行う。 ③生徒の学習成果を発表する場を設ける。 ④チャイムと同時の授業開始を教員・生徒ともに徹底する。 (2)生徒に身に付けさせたい力を明確にした、全科目統一書式に基づく年間学習指導計画を作成する。</p>	<p>(1)①～④の取組により、基礎的な知識技能の定着とともに思考力・判断力・表現力が高まっているか。(各教科による評価) (2)生徒に身に付けさせたい力を明確にした単元指導計画や年間学習指導計画を作成できたか。(年間指導計画集)</p>	<p>(1)公開研究授業において、昨年度までの取組成果の検証を行った結果、すべての研究授業で生徒の思考力・判断力・表現力が上がっていることがわかり、「学習成果発表会」においてもその成果を見ることができた。 (2)県から例示された指導計画様式に、本校として単元ごとの評価の重み付けを記号によって区別するなど、単元ごとに身に付けさせたい力を明示する指導計画様式にすることができた。</p>	<p>(1)授業改善への取組については、システムの(行事的)な視点での取組だけでなく、職員の自発的な取組の雰囲気醸成していく仕掛けが必要である。 また、「現象から原因を探求していく」学習活動の研究により、授業作りもその視点を入れながら工夫していく。 (2)年間指導計画には表れない、具体的な評価方法の工夫が今後は求められる。</p>	<p>(保護者) ・学習意欲を高める段階の指導の充実を望みたい。 ・学習意欲に差のある生徒が、同じ教室で授業を受けている状況が一部にあると聞いている。教員の一方的な講義調授業にならないで欲しい。 ・学習成果発表会は、ぜひ保護者にも公開して欲しい。 (学校評議員) ・県の指定を受けて授業改善に取り組み、その成果があったことは評価できるが、大事な今は今後である。継続的な研修と教員個々の研鑽が必要だと思う。</p>	<p>(学校評価) 教員内で授業改善の機運は高まり、生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業の実践は増えてきている。今後はその授業実践率を限りなく100%に近づけていくことが求められる。 学習成果発表会は初めてにしては、上々の成果であった。今後の継続的な実施に向けて検討していく。 (改善方策等) 1年間のスケジュールを年度当初に決めることと、学校全体の取組になるよう、全員参加の授業改善研修、実践の場を構築していく。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><キャリア教育></p> <p>(1)総合的な学習の時間を活用し体系的なキャリア教育を実施する。</p> <p>(2)部活動指導を通して、自主性や協調性、規範意識を育てる。</p>	<p>(1)①上級学校見学会や上級学校との連携による模擬授業、分野別説明会など、卒業後の具体的な進路に関する学習を実施する。</p> <p>(2)①イメージを担う人材の育成や産業界における新成長分野への理解などを深めるため、職業を意識した講演会を実施する。</p> <p>(2)各部活動における、主たる活動(運動競技、文化活動)を指導する際、自主性や協調性、規範意識の向上も併せて指導する。</p>	<p>(1)①進路意識が充実し、それに伴う行動ができるとともに、自己実現ができたか。(進路希望と実績の比較、オープンキャンパスや1日体験等への参加人数、ワークシート記述分析による担当教員の評価)</p> <p>②自分の適性を知り、情報収集をとおして必要な知識の定着や能力の育成、将来の目標が明確になったか。(ワークシート・振り返りシート記述分析による担当教員の評価)</p> <p>(2)部活動指導を通して、自主性や協調性、規範意識を育ったか。(担当教員による評価)</p>	<p>(1)①②1学年では、将来の職業を意識し、分野別や職業人による講演会等を通じ、進路意識が高まり、知識・理解も深まってきた。2学年では、夏休みのオープンキャンパスに9割以上が参加し、報告書の内容も充実し、目標が明確になりはじめてきた。3学年では、進路希望別講演会を多数開催、オープンキャンパス・模擬授業体験等で進路選択ができた生徒が多くなってきた。インターシップの参加者は10名、主に保育であるが、看護や保育の進学者のほとんどが1日体験を経験している。</p> <p>(2)地域清掃や校内整備、挨拶運動などを部活動単位で自主的に行う傾向が見られるようになってきた。</p>	<p>(1)①②講演会等のワークシートの記述等は概ね好評であるが、進路状況の結果からはAOや推薦に流れてしまふ生徒もまだ多い。外部テストの導入等もあり、自己実現のための具体的方策やレベル等は理解しているが、意識の高さを維持していくこと、更に具体的な目標を立て学習する習慣をつけることが課題である。</p> <p>(2)部活動加入率をさらに上げて、部活動を通した人間性の教育を広げていきたい。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職した卒業生の話や大学での話を聴く機会は非常に有意義だったと聞いている。 ・部活動などから、将来のことを考えたり、社会マナーを学んだりすることが多い。部活動のさらなる充実をお願いしたい。 	<p>(学校評価)</p> <p>卒業後の具体的な進路を生徒に考えさせる機会(行事)は非常に充実している。それがインターシップへの参加人数の上昇に結びついている。ただし、上級学校への進学先を分析すると、まだ「行きたい学校より「行ける学校」に流れている傾向がうかがえる。部活動をキャリア教育に位置づけるための取組はまだ各部活動の自主性に任せているところがある。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>進路先の調査とその進路実現のための方法とがリンクした内容の行事内容を検討する。部活動加入率を上げる工夫を、新入生入学と同時に開始する。</p>
<p><地域等連携></p> <p>(1)地域社会との交流や校種間連携を深め、生徒の校外活動を推進する。</p> <p>(2)学校からの情報発信力を強化する。</p>	<p>(1)①生徒・職員ともに、地域に根ざした学校作りをめざした地域貢献活動を行う。</p> <p>②地域が主催する行事への、本校生徒の部活動、委員会などでのボランティア参加を促す。</p> <p>③地域・分教室と連携した学校行事(特に文化祭)に様々な分野での参加や協力を求める。</p> <p>④授業や部活動において、近隣小・中学校との交流を行う。</p> <p>⑤28年度体育館耐震工事が実施される予定なので、生徒活動に関わる行事の見直しを進め、周辺の施設などを利用してもらうために地域に協力を求め、様々な学習活動が行えるよう計画を練る。</p> <p>⑥学校周辺の清掃や校内の環境を整え、清潔で衛生的な環境を保ち、地域周辺の清掃活動や環境の保全に協力をする。</p> <p>(2)①学校説明会や中学校訪問などの機会に積極的に情報発信を行う。</p> <p>②ホームページの更新を必要に応じて行い、情報発信を進めていく。</p> <p>③学年通信、クラス通信などを適宜発行する。</p> <p>④メール便などを活用して、保護者への情報伝達を充実したものにす。</p>	<p>(1)①地域との円滑な連携が行えたか。(担当教員による評価)</p> <p>②ボランティア参加生徒数の数値はどれほどか。(参加生徒数の数値、ボランティア先の記録)</p> <p>③具体的な学校行事への参加がどのようであったか。(担当教員による評価)</p> <p>④近隣小・中学校との交流ができたか。(交流記録)</p> <p>⑤学校行事の見直しができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域周辺の体育館、公民館、ホール、集客室などの借用について調査と予約を進めることができたか。(担当教員による評価) <p>⑥清掃活動の充実、清掃用具や環境保全のための施設用具の点検、地域と合同でできる環境保全活動や歴史的散策ができるような周辺行事や名所旧跡の紹介を行うことができたか。(担当教員による評価)</p> <p>(2)①本校の取り組みの内容について、十分に説明し、本校への関心を高められたか。(担当教員による評価)</p> <p>②ホームページの閲覧により、本校への理解が進んだか。(担当教員による評価)</p> <p>③、④の取組により保護者に情報が適切に伝わったか。(保護者アンケート)</p>	<p>(1)①③地域に伝わる伝統文化(風あげ)の行事に本校生徒が参加し、文化祭でも風の旗示発表の場を設け、生徒や一般の方々と共同で作成する。積極的な地域交流することができた。</p> <p>④学校外へのボランティア、インターシップの参加生徒が30人を超え、また、ダンス部や吹奏楽部等の部活動が福祉施設や近隣小中学校への訪問演奏の機会も増えるなど、地域への参加が大幅に高まった。家庭科や国語科などで、近隣小学校への出前授業や高校への招待などが盛んに行われた。</p> <p>⑤28年度行事予定の見直しを行い、球技大会や文化祭等の日程については時間をかけて検討した。また、大和スポーツセンターをはじめ、近隣の小中学校、公民館等の施設利用をお願いできた。</p> <p>⑥定期的な地域清掃や中高合同学校登校清掃を実施した。大雪対策として雪かき用具の備えも行った。本校初任者の研修として、地域の歴史的散策や地域行事への参加も行った。</p> <p>(2)①学校説明会・中学校および塾訪問等において、中学生へ本校の情報を的確に伝えられるよう配布資料、説明内容等を精選し、工夫に努めた。また、開催に向けた依頼文等の広報を増やした。参加者も昨年度を上回り、本校への関心が高まっていることがうかがえる。</p> <p>②ホームページの更新を適宜、迅速に行い、スピード感のある情報発信を行った結果、本校の情報が的確に伝わっていることが学校説明会等でのアンケートによって示された。</p> <p>③各学年、工夫を凝らした学年通信等を発信し、生徒の動機付けにつなげた。</p> <p>④2回の予定のメール便を3回実施し、保護者への的確な情報伝達に努めた。</p>	<p>(2)①中学校・塾訪問をさらに全職員で取り組めるよう工夫・改善に努める。</p> <p>②ホームページの担当者を組織的なものに改善する。</p> <p>③学年通信が保護者の目に留まるために、ホームページ等にアップできるような内容を改善する。</p> <p>④業者メール便の料金との兼ね合いがあるが、各学期実施できるよう、影響を受けない工夫をする。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール便での送付は、学校の様子が大変よくわかり助かった。今後も電子メールの活用とあわせて、情報発信の充実にも努めて欲しい。 (学校評議員) ・来年度に体育館耐震工事が予定されており、体育館が長期に渡って使えないことから、施設費との点でよりいっそうの地域連携の高まりが望まれる。 	<p>(学校評価)</p> <p>部活動、学校行事等の場において地域交流が積極的に行われているが、授業における地域交流がまだ不十分である。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>文化祭や生徒活動報告誌『多羅樹』における授業成果の発表を増やし、その中で地域交流の要素を取り入れていく。</p>
<p><学校運営・学校管理></p> <p>(1)生徒の防災意識を高めるとともに防災体制の整備を進める。</p> <p>(2)行動規範の確立に努め不祥事を起こさない組織性を高める。</p> <p>(3)職員の学校運営に対する積極性と使命感を高揚させる。</p>	<p>(1)①防災に必要な備品を点検し、特に地域の拠点になることを想定した防災計画を作成したか。(担当教員による評価)</p> <p>②実際の急な災害を想定した防災訓練を生徒防災委員会を中心にして分教室と合同で実施する。</p> <p>③校内の環境整備として、ごみの分別、清掃活動を推進する。</p> <p>④地域・通学路清掃を実施する。</p> <p>(2)①喫緊の課題を理解、解決するためのワークショップ型の職員研修会を実施する。</p> <p>②不祥事防止に向けた各種マニュアルに沿った行動を実践する。</p> <p>③学校運営の成果についてのアンケートを取ることで検証する。</p>	<p>(1)①防災計画を整備し、全職員に周知・徹底を行った。</p> <p>②全県一斉実施の「シェイクアウト」訓練を含めて、計画通りの防災訓練を行うことができた。また、文化祭においても、防災に関する体験コーナーを設けて、生徒・保護者・来校者に体験して頂き、その取組が高く評価されたことがアンケートからわかった。</p> <p>③④ごみの分別について利用状況の把握をし、特にペットボトルと缶の置き場所を変えた。上和田中学校との合同清掃を月一回の割合で始めた。生徒の意識は時間がかかると思うがイベントにしておくことで高めた。</p> <p>(2)①授業改善に関する研修会の結果、職員の、生徒が主体的に学ぶことに対する理解が深まった。</p> <p>②事故を防ぐために、職員同士で声を掛け合って業務に当たることが見られるようになってきた。</p> <p>③効率的な業務推進を目的に職員の意見集約の結果、新たなグループ編成、担当業務見直しを行うことができた。</p>	<p>(1)①職員の入れ替わりが多いことが予想されるので、防災計画の中で、特に人員配置と緊急時業務内容のスムーズな引き継ぎが行われるようにする。</p> <p>②防災訓練については、より実践的な訓練を目指すために、予告なしでの防災訓練を取り入れることを模索する。また、文化祭における体験コーナーも拡充していく。</p> <p>③④カラスからの被害が無いようにごみの保管と香鳥対策を講じた。自転車通学が多いので、なかなか登校時にごみを拾う作業ができないのが現状である。部活動やボランティアを募って進めたい。</p> <p>(2)①新たな研究指定を受けたことをふまえて、まずは研究内容の共通理解が喫緊の課題となるので、それをテーマにした研修会を行う。</p> <p>②今後も引き続き、職員の自発的な不祥事防止の取組ができるよう、心がける。</p> <p>③新しいグループ編成や業務分担が効率よく機能したかを検証する必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内環境の向上を目指して、PTA、旧PTA、教員で「園芸ボランティア」を行っている。今後も継続したい。 (学校評議員) ・ハザードマップが校内のいたるところに貼ってあり、教員、生徒双方の防災、危機管理意識の高まりが感じられる。 ・ごみの分別も進んでおり、校内緑化、花植えとあわせて、学校環境が向上している。 ・授業改善研修、人権研修など、喫緊の教育課題をテーマにした研修会では積極的に教員が議論し、一定の成果を得た。 (改善方策等) ・本校に与えられた新しいミッションを踏まえた学校目標実現のために、職員一人ひとりが具体的な教育活動計画を自己目標として設定する。 	<p>(学校評価)</p> <p>防災計画が整備され、全職員への周知が効果的に行われた。文化祭でも防災意識を高める催しが行われるなど、ハザードマップの掲出とあわせて、教員、生徒双方の防災、危機管理意識の高まりが感じられる。</p> <p>ごみの分別も進んでおり、校内緑化、花植えとあわせて、学校環境が向上している。</p> <p>授業改善研修、人権研修など、喫緊の教育課題をテーマにした研修会では積極的に教員が議論し、一定の成果を得た。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>本校に与えられた新しいミッションを踏まえた学校目標実現のために、職員一人ひとりが具体的な教育活動計画を自己目標として設定する。</p>	